



2011・国際森林年

2011 国際森林年のねらい

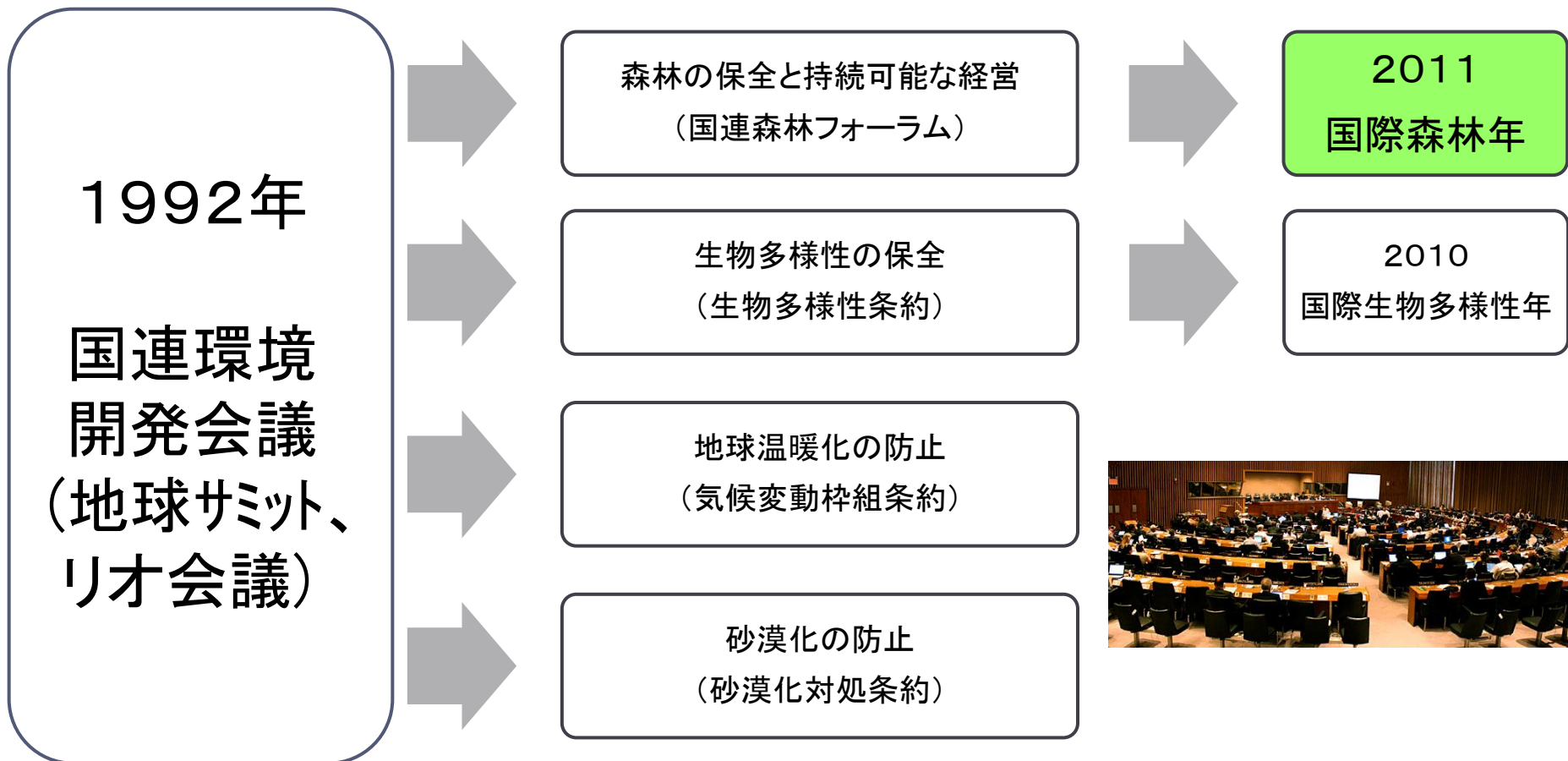
平成23年2月 林野庁



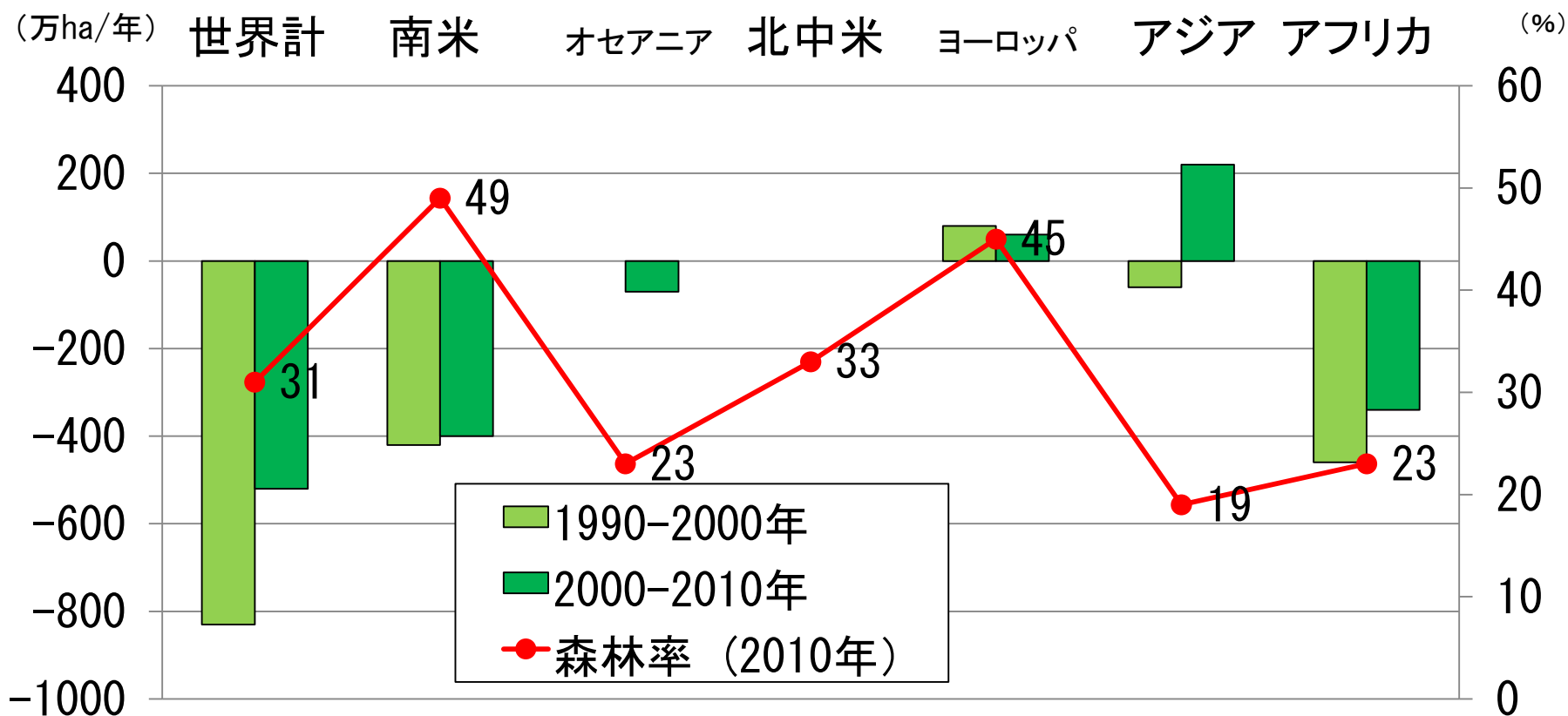
2011・国際森林年

国際森林年の位置づけ

- ▶ 国際森林年は、国連のもとで行われる活動。



世界の森林面積変化と森林率（地域別）



資料:FAO「世界森林資源評価 2010」

1990年～2010年間の間の世界の森林減少は、我が国の国土の約4倍



2011・国際森林年

2011 国際森林年の実施

2006年12月の国連総会において、2011年を国際森林年にすることを正式決定

森林に対する世界の市民の理解と参加が目的

国連森林フォーラム（UNFF）事務局が実施の中心となり、各国に対して国内委員会の設置をはじめとした自主的な活動を要請

国際生物多様性年と国際森林年とのブリッジングセレモニー（2010年12月18日、石川県金沢市）

国際森林年のキックオフ（2011年2月2～3日のUNFF9閣僚級会合、米国ニューヨーク）、国連総会等へ



2011・国際森林年

国際森林年のロゴマーク

- ▶ 「Forests for People (人々のための森林)」というテーマを伝えるもの。
- ▶ 世界の森林の持続可能な経営、保全等における人間の中心的役割を称える。
- ▶ 人々の居住環境や食料・水等の供給、生物多様性保全、気候変動緩和といった森林の多面的機能が人類の生存に欠かせないものであることを訴えるデザイン。



**INTERNATIONAL YEAR
OF FORESTS • 2011**



2011・国際森林年

我が国では

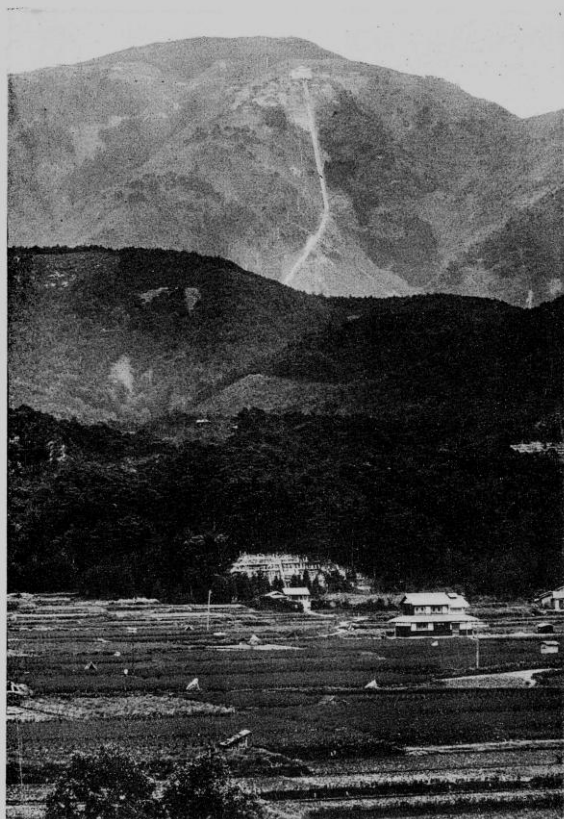


2011・国際森林年

昭和初期と現在の比叡山

叡山電気鐵道鋼索線

山本和七著



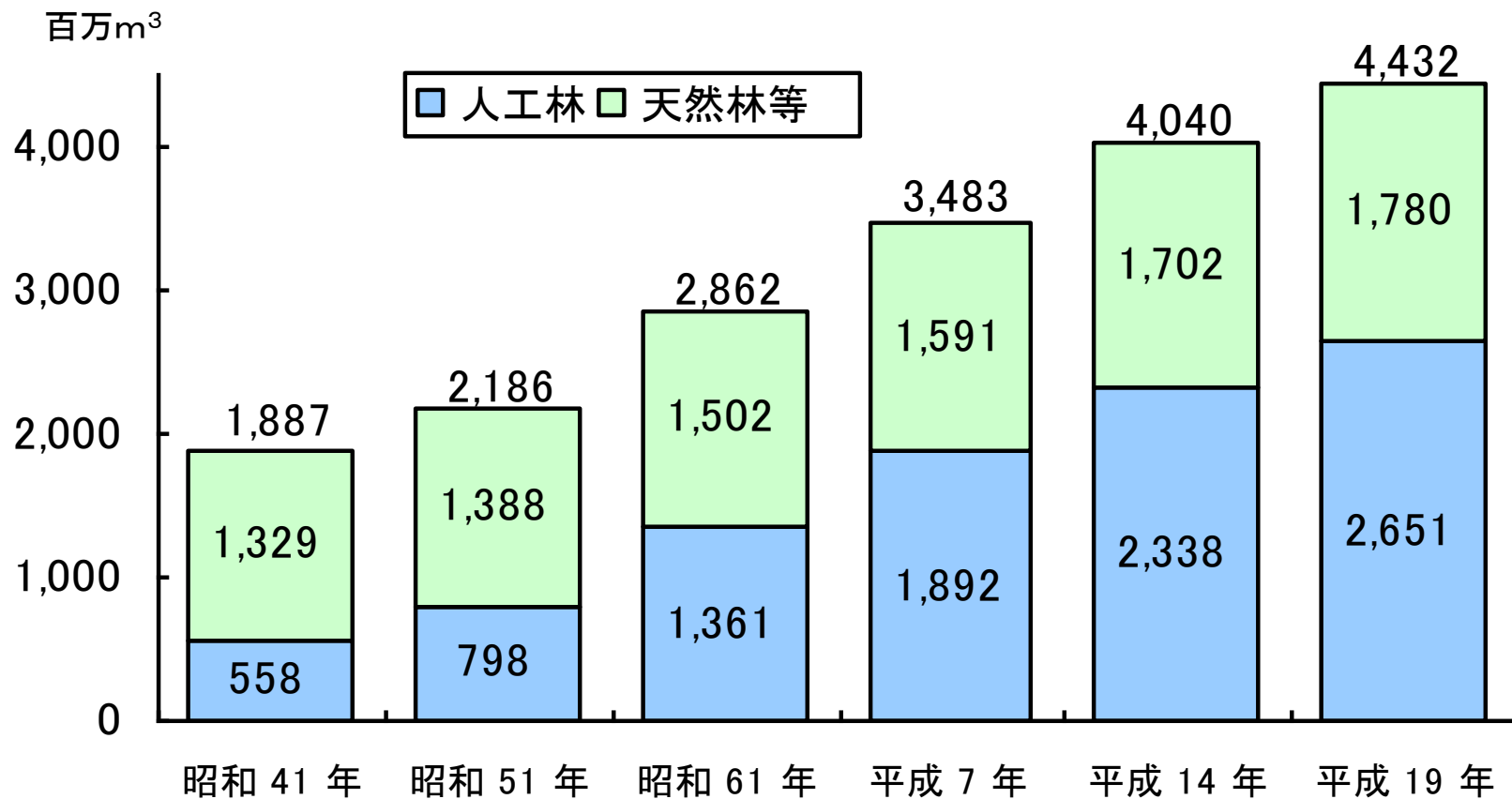
第1圖 岩倉村より見たる比叡山





2011・国際森林年

我が国の森林資源の推移

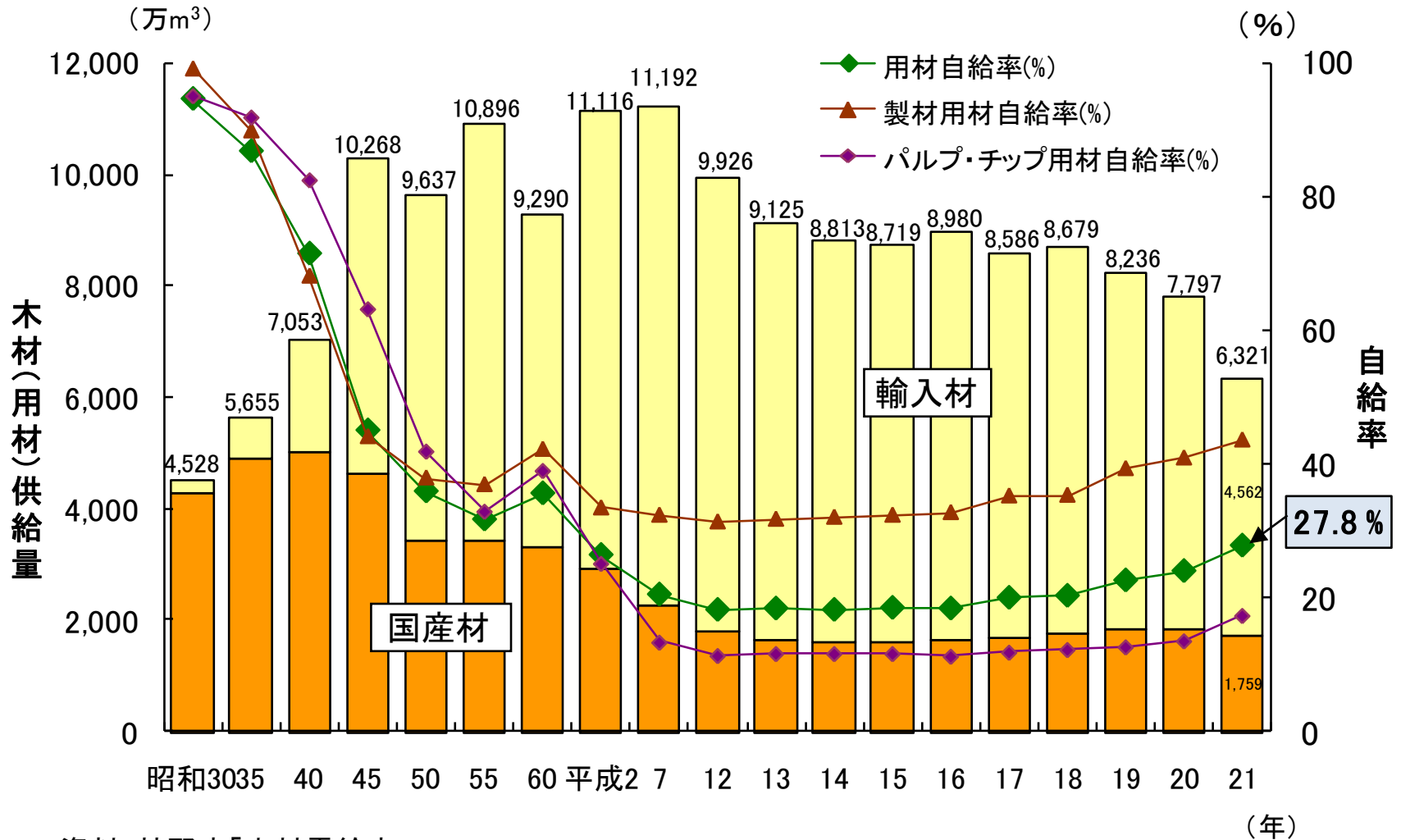


資料: 林野庁業務資料



2011・国際森林年

木材（用材）の供給量の推移



資料: 林野庁「木材需給表」

森林・林業の再生に向けた改革の姿（イメージ）

現 状

- 施業放棄森林の増加
- 形骸化している森林計画制度
- 計画がなくとも補助事業が受けられ、バラバラな森林施業を実施
- 丈夫で簡易な路網整備への対応の遅れ
- 計画的な人材育成策の欠如

森林計画制度の見直し

- 森林計画制度の見直しによる適正な施業の確保
- 森林管理・環境保全直接支払制度の導入による集約化推進

路網整備・人材育成

- 丈夫で簡易な路網整備の加速化
- フォレスターなど必要な人材の育成
- 担い手となる林業事業体の育成



木材資源の活用

- 公共建築物における木材利用の促進
- 木質バイオマス利用の拡大
- 国産材の安定供給体制の構築

中間土場の活用

製材・合板用材からチップ用材までのトータル搬出

現 状

- 流通構造が小規模・分散・多段階
- 需要者のニーズに対応できていない供給体制
- 公共建築物の木造率が低位
- 毎年2,000万㎡の林地残材が発生
- 消費者理解の醸成、人材の育成が必要

燃料等としての利用促進

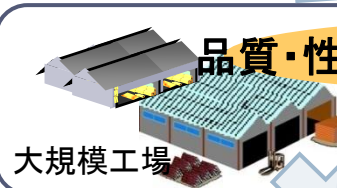
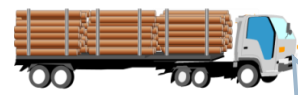


チップ工場等

燃料や製紙用チップ



木くず焚きボイラー
ペレットストーブ
石炭混焼 等

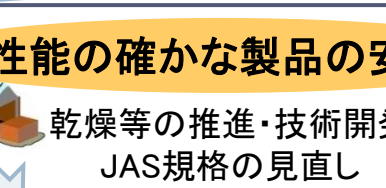
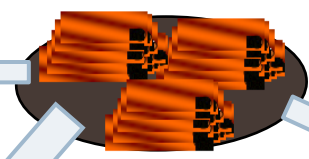


大規模工場

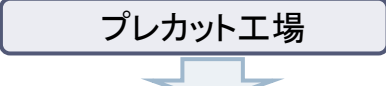
多角的な利用促進



国産材型枠用合板
木製ガードレール 等



品質・性能の確かな製品の安定供給
乾燥等の推進・技術開発
JAS規格の見直し



プレカット工場



工務店、ハウスメーカー



公共建築物・住宅等



地域中小工場

技術開発・人材育成

公共建築物等木材利用促進法の実効性確保

10年後の姿 木材自給率50%以上

中山間地域での雇用拡大・経済活性化、森林の多面的機能の発揮、持続的な森林経営の確立



2011・国際森林年

国際森林年に当たっての問題意識

もう一度、国民と森林の
きずなを取り戻せない
か。

森林・林業再生元年と
して弾みをつけられな
いか。

世界の森林の持続可能
な経営に貢献できない
か。

森林に新しい価値を見
出すことができないか。

国内における「国際森林年」の活動戦略案

- ▶ 国際森林年国内委員会を活動の中心として、豊かな森林を守り育てていくこと、またそのために国民一人一人が具体的に行動することが重要であることへの理解を深める。
- ▶ 我が国の林業を再生し、美しい森林づくりを推進するはずみになるよう、全国各地でのイベントも活用しながら効果的な取組を展開する。



植樹祭・育樹祭



美しい森林づくり



木づかい運動



途上国支援



2011・国際森林年

国際森林年の推進体制

国際森林年国内委員会

- ・ 各界の有識者にメンバーとなってもらい、国際森林年の進め方などについてご意見をうかがう。

フォレスト・サポーターズ

- ・ 「美しい森林づくり推進国民運動」の「フォレスト・サポーターズ(企業、NPO、個人等)」が「国際森林年」の活動に参加して頂く方策を検討。
- ・ その一つとして、フォレスト・サポーターズはオンラインで国際森林年のロゴマークを入手できる仕組みを構築。

事務局

- ・ 国内委員会を運営し、国内委員会の議論に基づいて国際森林年推進事業を実施する。



2011・国際森林年

国際森林年国内委員会名簿

赤池学(ユニバーサルデザイン総合
研究所所長)

天野礼子(作家)

飯塚昌男(日本林業協会会長)

出井伸之(美しい森林づくり全国推
進会議代表)

内山齊(日本新聞協会会長)

草野満代(フリーアナウンサー)

坂本龍一(音楽家、モアトゥリーズ代
表)

佐々木毅(国土緑化推進機構理事
長)

C. W. ニコル(C. W. ニコル・アフ
アの森財団理事長)

仁坂吉伸(和歌山県知事)

沼田早苗(写真家)

速水亨(速水林業代表取締役社長)

広瀬道貞(日本民間放送連盟会長)

宝月岱造(日本森林学会会長)

三村明夫(日本プロジェクト産業協
議会会長)

宮林茂幸(東京農業大学教授)

養老孟司(日本に健全な森をつくり
直す委員会委員長)

(オブザーバー)

外務省、環境省、観光庁

(メンバーは今後も追加の可能性あり)

我が国における国際森林年のテーマ

森を歩く

【サブテーマ】

未来に向かって日本の森を活かそう

【サブテーマ】

森林・林業再生元年

健康

教育

国民
参加

環境

木材
利用

観光

- ▶ 森林・林業再生と地域資源の活用によりしっかりと取り組む。
- ▶ 身近な行為を通じた国民の参加を求める。
- ▶ 様々な関連分野との連携・波及を目指す。

重点的に進めていくこと（たたき台）①



【世界のために】

- ▶ REDD+ (Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries) の推進
 - ▶ 支援策を充実させるとともに、途上国関係者に対して説明・PRを行うことはできないか。
- ▶ 海外植林活動に対する支援
 - ▶ 支援策を検討するとともに、活躍しているNPOの状況についてのシンポジウムなどができないか。
- ▶ 国際交流の推進
 - ▶ 行政関係者のための国際会議、研究推進のための国際会議、NPO・海外協力関係者、林業者・木材産業の交流を実施できないか。

重点的に進めていくこと（たたき台）②



【日本の次世代のために】

▶ 森林・林業再生プランの推進

- ▶ 2011年を、森林・林業再生プランの実施元年として弾みをつけられないか。

▶ 民間企業等との連携による森林づくり活動の推進

- ▶ 緑の少年団、森林ボランティアなどの活動について顕彰・広く紹介・PRなどができないか。
- ▶ 民間企業と連携した森林づくり活動の推進、森林の大切さや森林を歩くことを国民に広く普及する取組ができないか。
- ▶ ミネラルウォーターを販売や水道事業を通じて森林を保全している企業等を顕彰・紹介・PRするとともに交流するイベントなどができないか。

重点的に進めていくこと（たたき台） ③



【日本の次世代のために】

▶ 森と海のコラボレーションの推進

- ▶ 豊かな海を創る観点から森の保全を進めている団体などを顕彰・紹介・PRするとともに交流を進めるイベントができないか。

▶ 森を守り生物多様性を守る活動をしている人々を支援

- ▶ 森に手を入れ、生物多様性を守る活動をしている人々を前年の生物多様性年に引き続き支援できないか。
- ▶ 地元で里山を保全し、農地を守る人々を支援できないか。

▶ 国産材を含む森林・木材への認識の向上

- ▶ 森林・木材の知識を広く普及する取組みをできないか。
- ▶ 特に国産材製品を利用することの意義を訴求できないか。



2011・国際森林年

プロジェクトシート①

▶ 国民へ訴求する方法として以下のことを検討中。

森を語る新聞広告

- ・ 国際森林年を契機に企業や行政で活躍している方々の取組みについて、対談形式の新聞全面広告を行う。協賛する企業の取組として実施することを検討。

森を語るテレビ番組

- ・ BSなどで毎週著名人(歌手・財界人など様々)が森に関することを語ってもらう。司会には森に造詣のある芸能人を起用する。
- ・ これに加えて企業での取組の紹介なども行う。

各種学会の国際森林年記念大会

- ・ 森林関係だけでなく、幅広い学会において、国際森林年や森林をテーマとしてもらい、大会開催に際しての協力を行う。



2011・国際森林年

プロジェクトシート②

森林写真コンテスト

- ・各種写真コンテストなどにおいて、2011年のテーマを森林にってもらうよう働きかける。(文芸賞なども依頼してみる)

水を創る人々協議会シンポジウム

- ・ミネラルウォーター、水道水など、森を守りつつ自らの販売する水だけでなく多くの用途に使われる水を創っている企業などを顕彰・PRするシンポジウムを開催できないか。

環境関係フォーラムとの連携

- ・食・環境・地域づくりをテーマとしている行事との連携を進め、森林保全を進める観点からの協力を行う。

関連商品やキャンペーンによる消費者行動の促進

- ・国際森林年のロゴマークやテーマに沿った商品開発や販促キャンペーンにより、国産材製品の消費者行動に結びつけられないか。

具体的な取組の進捗状況

- ▶ 第1回国際森林年国内委員会(12月16日)
- ▶ 民間企業等への説明会(12月17日)
- ▶ 国際生物多様性年から国際森林年へのブリッジングセレモニー(12月18日)
- ▶ 日本森林学会が「国際森林年にあたっての会長アピール」を発表(1月1日)
- ▶ 住友林業による「サステナブルフォレストギャラリー2011『きこりんの森』」(1月15～16日、有楽町駅前)
- ▶ 観光庁による「日本のおみやげコンテスト」に国産材を使用した「国際森林年特別賞」を設定(3月に表彰)
- ▶ 国土緑化・国際森林年記念切手の発売(5月20日)



etc.



国際森林年推進事業（平成23年度予算）

- ▶ 平成23年度予算案について、「国際森林年推進事業」（新規、3億円）が概算決定。
- ▶ 国際森林年という機会を捉えて普及活動を展開し、我が国における豊かな森林の維持、途上国の森林保全等に対する国民の理解を促す。

国際森林年国内
委員会の運営

国際森林年
普及事業の実施

国際森林年
記念会議の開催



2011・国際森林年

国際森林年における取組スケジュール

12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

国際生物多様性年
とのブリッジングセレモニー
(石川県、12/18-19)

第9回国連森林フォーラム会合(ニューヨーク,1/24-2/4)
ハイレベル対話(2/2-2/3)
・世界の持続可能な森林経営に係る取組の評価
・国際森林年の立ち上げ
・国際森林映画祭の受賞作品発表

第66回国連総会
(ニューヨーク,9月)
・活動状況の報告

国際森林年
クロージングセレモニー
(場所等未定)

国内委員会の設置

第1回
国内委員会

民間企業等との連携

国内委員会の運営・普及事業の実施
(ウェブサイトの設置、企業等との連携等)

4/15~5/14
みどりの月間

10/1~10/31
木づかい推進月間

みどりの
感謝祭

全国植樹祭
和歌山県

全国育樹祭
奈良県

国際森林年記念
会議の開催

【凡例】

国際森林年において新たに行う取組

既存の事業の活用による国際森林年への取組